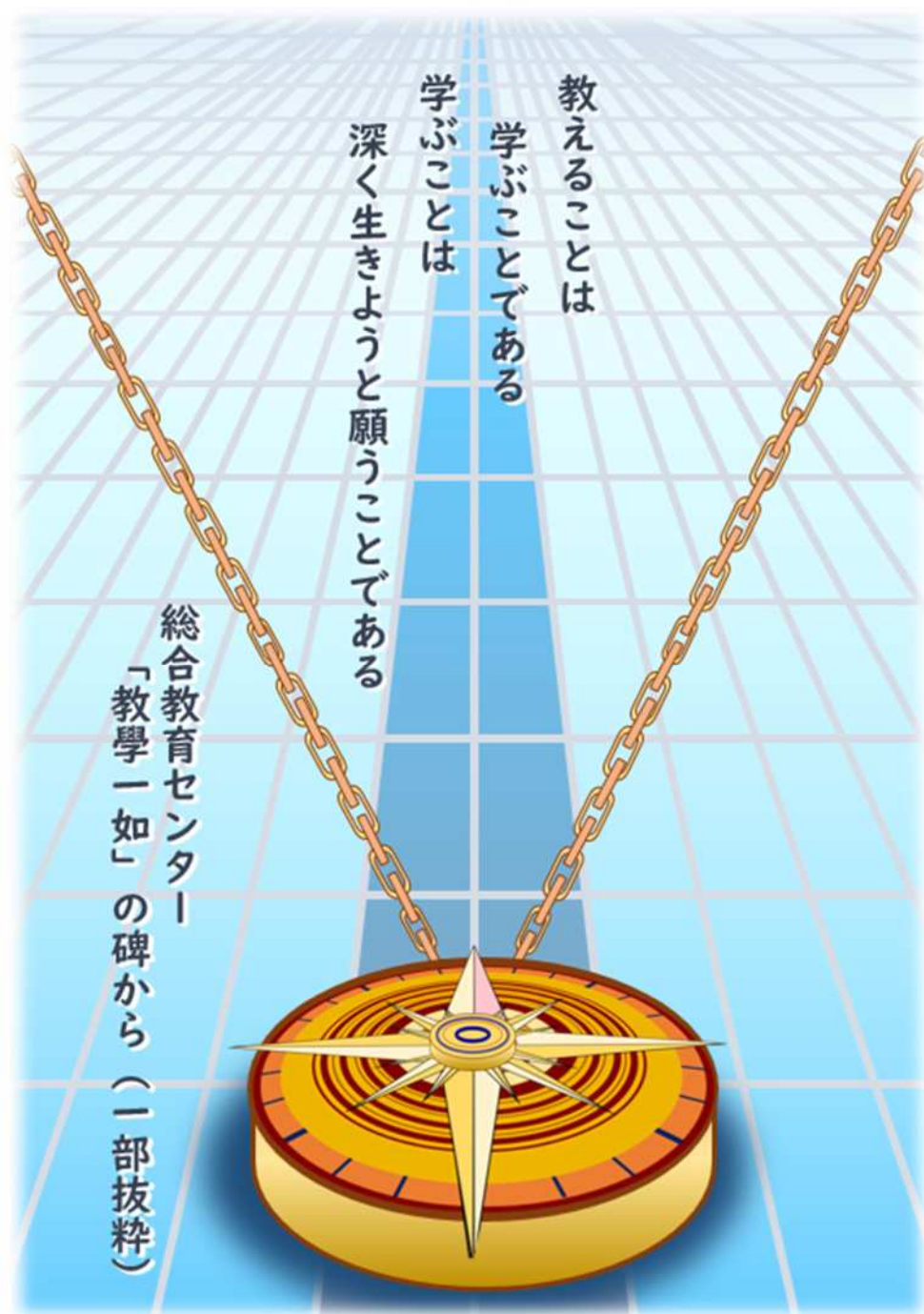


学びの羅針盤



令和7年3月
鹿児島県教育委員会

発刊に寄せて

平成 27 年 3 月に、学び続ける教員の手引書として「学びの羅針盤」が発刊され、これまで各学校の授業改善を目指した校内研修など様々な機会を活用されてきました。

令和 6 年度の改訂では、中教審令和 3 年答申において示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」をより一層推進するため、「学習者主体の授業」の実現を図るよう大きく刷新しました。本資料では、これからの時代に、なぜ「学習者主体の授業」が必要とされているのか、さらに、「学習者主体の授業」を進めていくためにはどのような考え、方法が必要になるのかについて述べています。また、後半には「学習者主体の授業」の実践例を掲載しています。

子供の学びの深まりや学力は、授業の質や学校全体の取組により大きく左右されます。だからこそ、個々の教員や学校は、一人一人の子供と学校全体の学力の現状を真摯に見つめ、質の高い授業の実現や授業改善に向けた学校の組織的な取組の充実を目指さなければなりません。そのために、先達がこれまでに蓄積してきた知見を生かし、教員一人一人が主体性を発揮し、同僚性を高めながら研鑽に努めていくことが求められているのです。

本資料を媒介として、「学習者主体の授業」を各学校で実践していくためにはどのようなすればよいかを教員同士で意見を交流したり、授業改善の在り方を論議したりしてほしいと思います。また、保護者の方々とも同様に学力向上について語り合う姿も期待します。

最後になりますが、発刊につきまして御協力いただいた鹿児島県学力向上検証改善委員会をはじめとする関係の皆様、厚く御礼申し上げます。

令和 7 年 3 月

I 鹿児島県の教員として P 1

II 「学習者主体の授業」の必要性 ～主体的・対話的で深い学びを実現するために～ P 2～P 11

- | | | |
|-----|--------------------------------|--------|
| 1 | 子供たちにどのような資質・能力を育成すればよいですか | … P 2 |
| 2 | 子供たちの資質・能力を育成するためには何が求められていますか | … P 3 |
| 3 | 鹿児島県の子供たちの学力や学習状況の現状はどうなっていますか | … P 4 |
| 4 | 「学習者主体の授業」を実現するにはどのような考えが必要ですか | … P 6 |
| 5 | 「学習者主体の授業」を進める上で大切な視点は何か | |
| 視点Ⅰ | 「学習者主体」の視点を重視した授業研究 | … P 7 |
| 視点Ⅱ | 「生徒指導」の視点を重視した授業改善 | … P 8 |
| 視点Ⅲ | 「特別支援教育」の視点を重視した授業改善 | … P 9 |
| 視点Ⅳ | 「教育DX」の視点を重視した授業改善 | … P 10 |

III 「学習者主体の授業」による学びの質の向上 P 12～P 25

- | | | |
|---|------------------------------------|--------|
| 1 | 「学習者主体の授業」は、具体的にどのように進めればよいですか | … P 12 |
| 2 | 「学習者主体の授業」を進める上で、教員はどのように関わればよいですか | … P 14 |
| 3 | 「学習者主体の授業」とつながる家庭学習はどのように進めればよいですか | … P 14 |
| 4 | 「学習者主体の授業」の進め方について、実践例はありますか | … P 15 |



中教審令和 3 年答申では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められています。二次元コードを読み取り、その概要を確認しておきましょう。

←「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第 228 号）【令和 3 年 4 月 22 日更新】



今、私たち教員に求められていることは

子供たちを取り巻く社会は大きく変化しています。
今、私たち教員に求められていることは何なのでしょう。

「教えることは 学ぶことである
学ぶことは 深く生きようと願うことである」(教学一如)

子供たちと共に学び、深く生きる。南北 600km のステージで、私たち教員にはその喜びが与えられています。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じて主体的・対話的で深い学びを実現することが、子供たちだけでなく、「新たな教員の学びの姿」として教員にも求められています。

子供の学びと教員の学びは「相似形」とも言われています。「学ぶ」ことを楽しいと思える教員と一緒にいてこそ、子供たちの学びは豊かになる、幸せにつながる。そう信じています。



教特法

「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」とあります。
第21条「研修」をチェック！

←「教育公務員特例法」



育成指標

教員としてのキャリアステージに応じて求められている資質があり、県では「かごしま県教員等育成指標」としてまとめています。

←「かごしま県教員等育成指標」

【令和5年4月（全面改訂）】

Ⅱ

「学習者主体の授業」の必要性

～主体的・対話的で深い学びを実現するために～

Ⅰ 子供たちにどのような資質・能力を育成すればよいですか

Answer

学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むことが求められています。そのため、全ての教科等において、資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成していく必要があります。

- 私たち教員は、学校教育目標の実現に向けて、子供たちに育成する資質・能力を校内で共有し、具体化の手立てを教育課程に反映し、意図的・計画的に実施、評価、改善していく必要があります。
- その際、子供たちや地域の実態を踏まえた上で、例えば教育DXや生徒指導、特別支援教育の視点などで有機的に関連付けながら、総合的・包括的に運営していくカリキュラム・マネジメントが重要です。
- また、教育の目的について、その法的根拠を理解しておくことも重要です。教育基本法に掲げられている教育の目的についても、下の二次元コードから確認しておきましょう。

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的に捉えて構造化

知識及び技能

何を理解しているか、何ができるか

思考力、判断力、表現力等

理解していること・できることをどう使うか

「学びに向かう力、人間性等」が高まることで、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の定着や伸びも相乗的・総合的に高くなると考えられます。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

対話的な学び

子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び



教育基本法についても確認しておきましょう。
第1条「教育の目的」もチェック！

← 「[教育基本法](#)」



学校教育法についても確認しておきましょう。
第30条第2項とも関連！

← 「[学校教育法](#)」

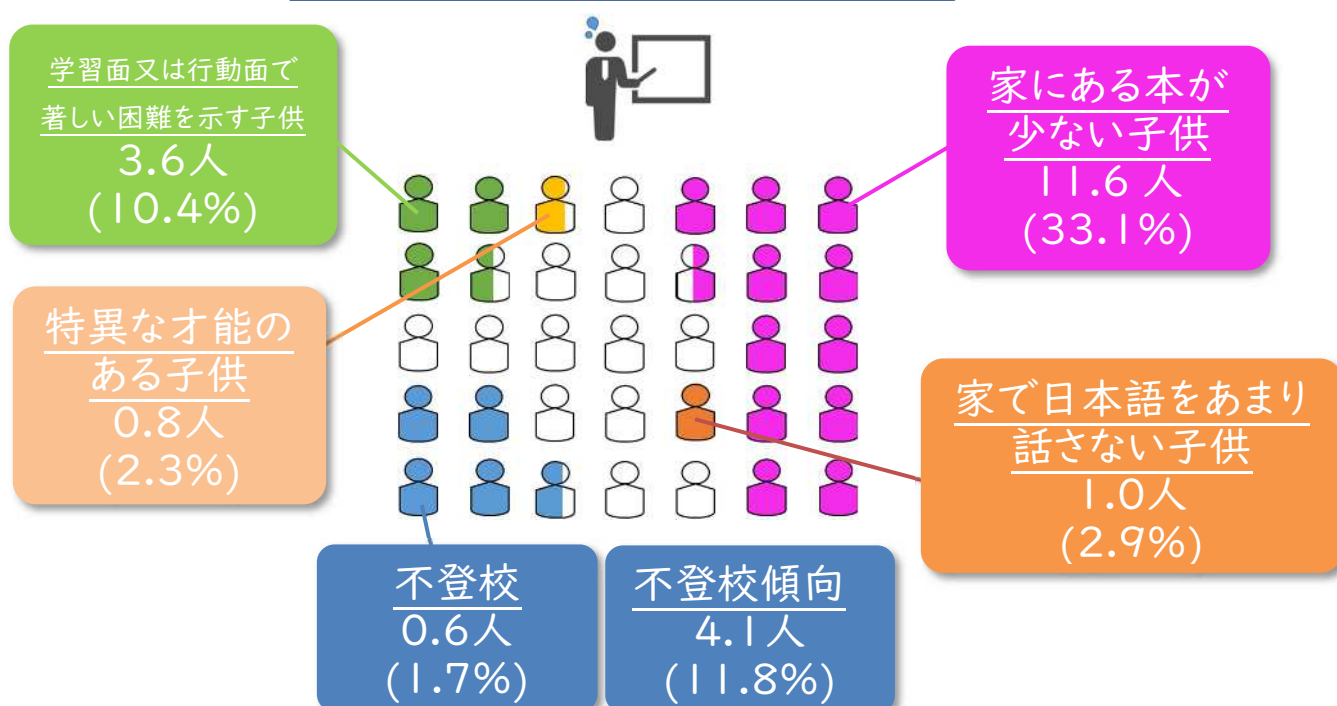
2 子供たちの資質・能力を育成するためには何が求められていますか

Answer

「学習者主体の授業」によって「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を推進することです。

- これからは、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」、感染症の拡大など先行き不透明で予測困難な時代が到来するとされており、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われています。
- このように学校を取り巻く環境が大きく変化する中で、令和5年6月に「[第4期教育振興基本計画](#)」が閣議決定され、今後の教育政策に関する総括的な基本方針として、
 - ・「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」
 - ・「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」
 の2つのコンセプトが掲げられ、教育関係者には、その実現に向けた取組が求められています。
- その実現に向けて大きな役割を果たすのが「[令和の日本型学校教育](#)」の実現です。令和3年答申においては、目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」とされています。
- 一方、下の図から分かるとおり、子供たちの実態は時代の変化に応じて大きく変化しており、多様になっています。
- このような状況においては、教員による一律・一斉・一方向の指導だけでは限界があり、全ての子供たちの可能性を引き出すことは困難であると考えられます。
- このようなことから、子供たち一人一人の理解度や認知の特性、興味・関心等を踏まえた「個別最適な学び」と、それらの学びが孤立することがないように「協働的な学び」を一体的に充実させることが求められています。そうした学びの根底には「学習者主体」であることが当然に求められます。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力の育成につながり、ひいては、ウェルビーイングの向上に資すると考えます。

小学校 35 人学級の実態



(出典) 文部科学省「[義務教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ参考資料](#)」【令和6年2月22日】を基に作成。

3 鹿児島県の子供たちの学力や学習状況の現状はどうなっていますか

Answer

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果から、小学校においては全国平均正答数とほぼ同等で、中学校においては全国平均正答数をやや下回っていますが、差が縮まってきた傾向にあり、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点においては、おおむね改善傾向にある状況です。

一方、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか」という自己調整力に関する項目や、「自分にはよいところがあると思うか」という自己肯定感に関する項目が低いことなど、「学びに向かう力、人間性等」に関する調査において依然として課題が継続しており、「学習者主体の授業」が必要であることが分かります。

【各教科の平均正答数，平均正答率（小学校）】

※ 令和6年度「全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析」から抜粋

	国 語		算 数	
	鹿児島県	全 国	鹿児島県	全 国
令和6年度	9.6 / 14問 (69%)	9.5 / 14問 (67.7%)	10.0 / 16問 (62%)	10.1 / 16問 (63.4%)
【参考】 令和5年度	9.4 / 14問 (67%)	9.4 / 14問 (67.2%)	9.8 / 16問 (61%)	10.0 / 16問 (62.5%)

【各教科の平均正答数，平均正答率（中学校）】

	国 語		数 学	
	鹿児島県	全 国	鹿児島県	全 国
令和6年度	8.4 / 15問 (56%)	8.7 / 15問 (58.1%)	8.0 / 16問 (50%)	8.4 / 16問 (52.5%)
【参考】 令和5年度	10.5 / 15問 (70%)	10.5 / 15問 (69.8%)	7.2 / 15問 (48%)	7.6 / 15問 (51.0%)

【児童生徒質問紙調査から】

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合（％）

質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。 【自己調整力】	R6	29.8	30.3	-0.5	26.8	28.2	-1.4
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。 【主体的な学び】	R5	28.1	30.5	-2.4	28.0	30.4	-2.4
	R6	27.6	29.5	-1.9	24.1	27.2	-3.1
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。 【個別最適な学び】	R5	39.4	37.3	2.1	20.2	22.6	-2.4
	R6	36.0	34.4	1.6	21.8	24.9	-3.1
国語の授業の内容はよく分かる。	R5	39.4	40.4	-1.0	26.7	30.4	-3.7
	R6	36.6	39.2	-2.6	27.8	32.0	-4.2
算数（数学）の授業の内容はよく分かる。	R5	44.8	45.2	-0.4	33.8	33.9	-0.1
	R6	45.6	44.9	0.7	32.5	35.1	-2.6
自分によいところがあると思う。 【自己肯定感】	R5	35.5	42.6	-7.1	30.9	37.2	-6.3
	R6	36.8	43.4	-6.6	36.0	40.4	-4.4



全国学力・学習状況調査から
子供の実態が分かります。

←鹿児島県教育委員会

「[全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析](#)」



鹿児島学力・学習状況調査の
分析結果も確認しましょう。

←鹿児島県教育委員会

「[鹿児島学力・学習状況調査報告書](#)」

（旧鹿児島学習定着度調査）

年度当初に，学校教育目標（①）や目指す子供像（②）を確認しましょう。

また，校内研修等において，自校の子供たちの姿（③）を振り返り，育成したい資質・能力（④）や目指す授業像（⑤）について語り合い，観を交流しましょう。

① 学校教育目標

② 目指す子供像

③ 自校の子供たちの姿

④ 育成したい資質・能力

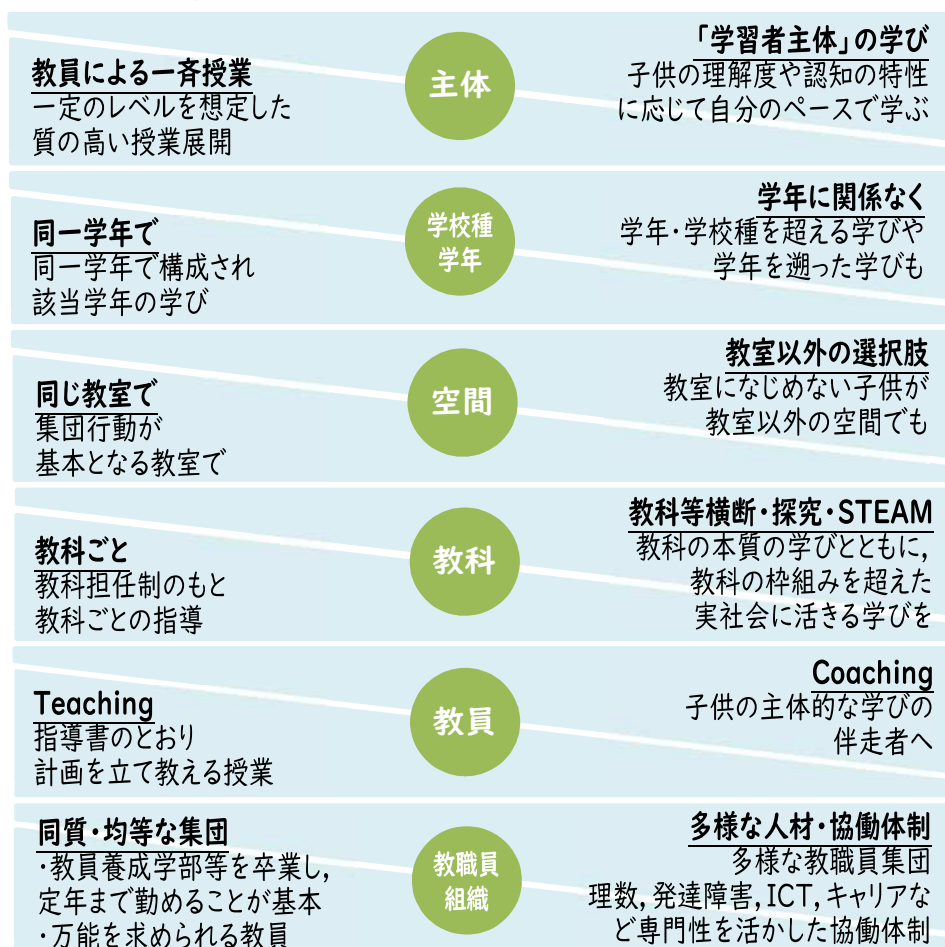
⑤ 目指す授業像

4 「学習者主体の授業」を実現するにはどのような考えが必要ですか

Answer

一律・一斉・一方向のみによる授業から脱却し、子供に委ねる場面とのバランスを踏まえた単元計画をデザインした上で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指すことが大切です。

- 「一律」の対義語としては「多様」や「ばらばら」などが、そして「一斉」の対義語としては「別々」や「個々に」といったものが挙げられます。また、「一方向」の対義語としては「双方向」、「相互的」などが挙げられます。
- これらを踏まえて考えると、一律・一斉・一方向のみによる授業からの脱却とは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に行われる授業ではないかと考えられます。
- それでは、教員主導の授業のみでは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することは難しいのでしょうか。
- これまでも、教員の不断の努力により、例え教員主導であっても、子供が生き生きと学ぶ事例はたくさんあったと考えられます。しかし、その中で、学級にいる多様な全ての子供が本当に満足する授業になっていたといえるのでしょうか。
- もっと自分が興味あることについて調べてみたい。もっと考える時間が欲しい。もっと友達と対話を重ねたい。そんな子供の願いとは裏腹に、教員が選んだ教材で、教員が設定した時間で、教員が提案した学習形態のみで授業が進められてきてはいないでしょうか。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に行われる授業では、子供が主体となって興味・関心に応じて学習方法や内容を選択・決定していく場面も必要となります。
- これからの教員に求められることは、教科等の特性や子供の実態に応じて「教員主導」と「学習者主体」のバランスを見極めて単元計画をデザインしていくことであり、教材研究を重ねることが重要になります。



(出典)「[Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ](#)（内閣府 総合科学技術・イノベーション会議資料【令和4年6月2日】）」を基に作成。

5 「学習者主体の授業」を進める上で大切な視点は何ですか

Answer

授業研究、生徒指導、特別支援教育、教育DXといった、様々な視点から授業改善を続けることが大切です。本資料ではこの四つの視点について説明していきます。



視点Ⅰ 「学習者主体」の視点を重視した授業研究

- 「学習者主体の授業」を行うに当たっては、まず、それぞれの教員がもつ子供観を交流し、「観のアップデート」を行うことが重要です。
- その上で、子供たちに育成する資質・能力を校内で共有し、具体化に向けた手立てを教育課程に反映し、実施、評価、改善していく組織体制が不可欠です。
- その共通理解の下、授業参観を行う際には、子供の学びの姿（事実）が、育成する資質・能力を発揮した姿として表れているか、「子供たちが」何をつぶやき、どのような行動をとっているかを根拠に指導法を見つめ直すことが大切になります。
- このような視点に立って授業研究を行うには本県が推進している授業研究が有効です。

どのような授業研究ですか

1 子供の学びの姿（事実）からスタートする

校内研究授業では「首をかしげていた」、「すぐに鉛筆を持って書き出した」など、子供たち一人一人の学びの事実を丁寧に見取ります。その際、「楽しそうに活動していた」という推測や、「子供がよい発表をしていた」という評価は除きます。

2 子供の学びの姿（事実）の解釈について交流する

事実のもつ意味や解釈を交流することにより，新たな気づきや発見とともに，授業観や子供観等の観のゆらぎが生まれます。

3 授業における目指す子供像に迫っていたかどうかを検証する

子供の学びの姿（事実）の背景を，子供の立場になって考えます。

4 共通実践事項を検討し、実践する

子供たちのために具体的に授業をどのように改善するかを話し合い，共通実践事項として決定します。決定後は共通実践事項を踏まえた授業実践を行います。



どのような効果がありますか

上記の1～4の授業研究を行い，授業改善に生かしている学校では，主体的に研修に参加する教員が増え，子供観の交流や授業の在り方に関する積極的な意見交換が行われています。また，学校全体で目指す子供の姿を追い求めた具体策を検討し，学力調査の結果につながっている学校も増えています。実践している学校では，以下のような声が聞かれます。

（参加教員）

子供の学びの姿（事実）の解釈では，多様な見方が見られ，新たな視点に気付かされた。子供を観察する力をしっかりと身に付けたい。

（管理職）

学習者主体という言葉はよく聞くんが，子供を主語として語り合う教員の姿が、求められている姿だと実感できた。

（授業者）

教科は異なっても，同じような部分に課題があることが分かり，全校体制で改善を図る必要性を感じた。



総合教育センター作成による「教職員のための研修の手引き」がリニューアルされています。子供たちの資質・能力の育成に向けた組織的な校内研修の在り方の参考として活用しましょう。

← 総合教育センター「教職員のための研修の手引き」



視点Ⅱ 「生徒指導」の視点を重視した授業改善

今こそ、意識を変えるとき！これからは、学習指導と生徒指導の一体化を！

- 改訂された生徒指導提要では、学習指導の目的を達成する上で、また生徒指導の目的を達成し、生徒指導上の諸課題の未然防止のためにも、教育課程における生徒指導の働き掛けが欠かせないとされています。
- 学習指導と生徒指導を分けて考えるのではなく、相互に関連付けながら両者の充実を図り、教育目標を実現するために、「子供の発達を支える指導」（発達支持的生徒指導）の充実を具現化することが大切です。

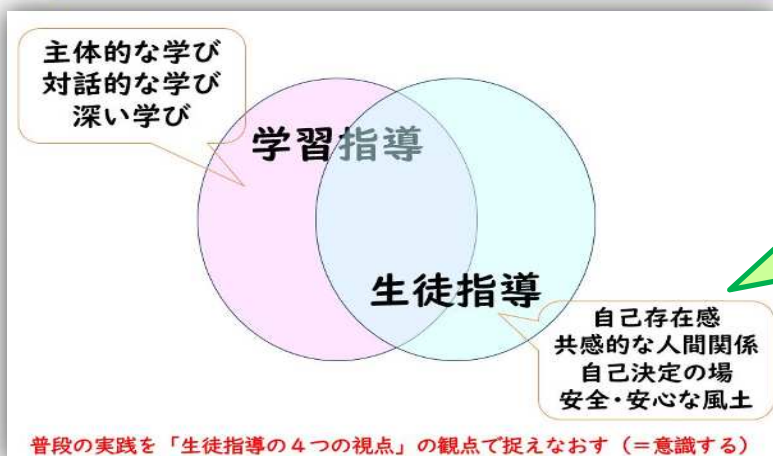
発達支持的生徒指導とは何ですか

- 特定の課題を意識することなく、全ての子供を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外のすべての教育活動において求められる基盤です。
- 子供が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重し、その発達の過程を支える学校や教員の子供に向き合うスタンス（「指導」でも「援助」でもない）です。

発達支持的とは何ですか

- 自己理解力や自己効力感、コミュニケーション力、他者理解力、思いやり、共感性、人間関係形成力、協働性、目標達成力、課題解決力などを身に付けることを支えることです。
 - 日常的な挨拶や声かけ、励まし、称賛、対話 など
 - 学級や学校をどの児童生徒にとっても落ち着ける場に（居場所づくり）、活躍できる場面を計画・準備する活動（絆づくりの場の提供）など

授業の中に、生徒指導の実践上の四つの視点を取り入れましょう。

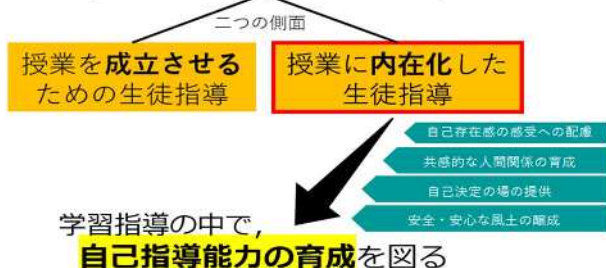


これからの授業づくりでは、「学習指導要領」の趣旨を踏まえるとともに、「生徒指導提要」も活用して、学習内容や支援の方法、学習環境や形態等を工夫することが重要です。

授業こそ、最も重要な発達支持的生徒指導の場です。

これからは、学習指導と生徒指導の一体化を!!

授業の中での生徒指導



生徒指導の実践上の四つの視点

- 自己存在感の感受への配慮
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全・安心な風土の醸成

このような取組を重ねることは「魅力ある学校づくり」の重要な取組の一つです。発達支持的生徒指導を踏まえた学習指導が展開されることで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感が高められるとされています。このような生徒指導の視点を重視しながら授業改善を行っていくことは、「学習者主体の授業」を実践するためにも重要となります。



視点Ⅲ 「特別支援教育」の視点を重視した授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行う際には、特別支援教育の視点に立って指導・支援を行うことが有効です。



1 特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

はじめに…学びにくさのある子供のアセスメントを実施→学びにくさを把握し、
個別の指導計画を作成→PDCAサイクルで実施

Plan ・ UD(ユニバーサルデザイン)を意識した単元構想と授業づくり

・ ICT等を活用した一人一人に合った指導・支援の計画

Do ・ 授業の実践 ・ 「個別最適な学び」 ・ 「協働的な学び」

Check ・ 有効な指導・支援について本人(保護者)とともに確認 ・ 課題の把握

Action ・ 個別の指導計画を更新 ・ 本人・保護者との評価の共有 ・ 授業改善

「個別最適な学び」を教員の視点で整理した概念が「個に応じた指導」です。「個に応じた指導」で子供が身に付けたことを、学級等で友達とともに学ぶ集団学習の中で生かすことができるよう、「協働的な学び」を計画的かつ積極的に工夫して取り組むことが大切です。



2 ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・環境整備

- 発達障害等を含む配慮を要する子供に「ないと困る支援」
- どの子供にも「あると便利で、役に立つ支援」



全ての子供の過ごしやすさと
学びやすさの向上

ユニバーサルデザインの視点 焦点化(シンプル) 明確化(クリア) 視覚化(ビジョン)

ア 焦点化(シンプル)

- 環境づくり(場の設定・音の配慮)
- イメージづくり(間・選択肢・区切り)
- 短い言葉で伝える
- ※ 教員がどれだけ意識して指導することができるかが大切。

イ 明確化(クリア)

- 正しい行動を明確に伝える
- 「いつ・どこで・何を」すればよいのか(大丈夫なのか)教える
- ※ 一斉指導で、または個別に明確に伝えることが大切。

ウ 視覚化(ビジョン)

- 見えないものを見えるようにする
- イメージを助けることで安心を与える
- ※ 視覚化することで、安心して自分から動くことやで
きることが増える。



学級でのユニバーサルな配慮 ～例～
「注意喚起」…注目させてから話す
「視覚化」…言葉+実物・絵・文字
「簡潔な指示」…一度に一つの指示
「復唱」…繰り返し唱える
「行動の確認」…今から何をする？



ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを進める際には、
「学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引・資料集」
も活用してください。

← 鹿児島県教育委員会 「学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引・資料集」



視点Ⅳ 「教育 DX」の視点を重視した授業改善

「個別最適な学び」,「協働的な学び」の実現には、子供自身が ICT を活用して個々の状況、特性に応じて、自ら目標を設定し、学習方法等を自ら選択、自己評価できる学習モデルを創造していく、教育における DX (デジタルトランスフォーメーション) を推進することが不可欠です。



1 タブレット端末利用の日常化・文房具化

「個別最適な学び」,「協働的な学び」の実現に向けて、タブレット端末を活用しましょう。

子供が場所や時間・言語等にとらわれない学びや、個々やグループ等の特性に応じた学びを実現するためには、タブレット端末を、教員の指示に限らず、児童生徒自身が必要な時に必要な方法で、文房具のように日常的に利用できるようにする必要があります。これにより、子供は、自らの学びを調整しながら学び進めていくことが可能になります。

2 教育データの利活用

ICTにより蓄積された教育データを有効に活用し、指導に生かしましょう。

- 子供の学習履歴や学習成果物等のデータを基に児童生徒の学びの特性を把握し、それに応じて指導の個別化を図ったり、子供自身が学習方法を選択したりすることができるように指導します。
- AI ドリル等を活用することで、習熟状況をリアルタイムで確認できます。一人一人の子供の学習進度や課題に応じた練習問題を自動で表示させるなど、主体的に学習に取り組めるようにします。

- 学習系と生活系のデータ（出席状況、心の健康状態など）等、様々なデータの相関により、これまで教員の勤や経験だけに頼っていたものに、データによる裏付けを加えることで、より子供を適切に理解し、指導・支援に生かすようにします。

3 学習者主体の家庭学習

タブレット端末の持ち帰りにより、主体的に家庭学習に取り組めるようにしましょう。

タブレット端末の持ち帰りにより、学校における授業と主体的な家庭学習の往還が可能となります。

端末を活用した家庭学習例

- グループで一つのプレゼンデータをそれぞれの家庭から共同編集する。
- それぞれが作成した発表データにお互いにコメントを入れる。
- 学習のまとめを動画で作成する。
- 技術・家庭科や音楽科、保健体育科など、家庭での取組を動画に撮って提出する。等

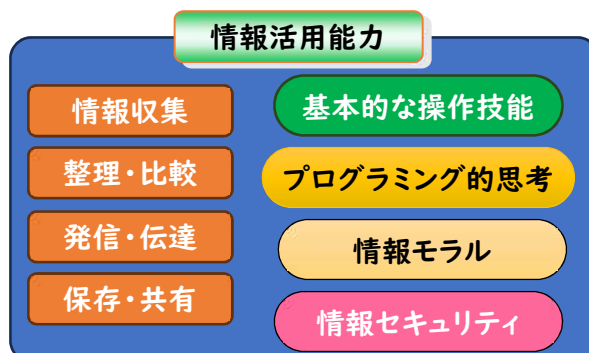
4 学習の基盤となる情報活用能力の育成

教科等横断的な視点から、学習の基盤となる情報活用能力の育成を目指しましょう。

学習指導要領解説 小学校総則編から抜粋

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。



ICT 活用は、授業の目的達成のための手段であり、子供の情報活用能力を育てるものです。
また、校務に活用することで教育 DX を推進し、その便利さを授業に生かしていく必要があります。



文部科学省
「StuDX Style」
(スタディーエックススタイル)

← 文部科学省「StuDX Style」



総合教育センター
「鹿児島県 G I G A スクール
構想の実現に向けて」

← 総合教育センター「鹿児島県 G I G A スクール
構想の実現に向けて」



総合教育センター
「ICT活用資料」
(県域アカウント活用など)

← 総合教育センター「ICT活用資料」



鹿児島県教育委員会
「100人の1歩のための100の
ヒント」

← 鹿児島県教育委員会
「100人の1歩のための100のヒント」

※県域アカウントによるログインが必要です。

Ⅲ 「学習者主体の授業」による学びの質の向上

Ⅰ 「学習者主体の授業」は、具体的にどのように進めればよいですか

Answer

育成する資質・能力を踏まえた上で子供に学習を委ねる場面や、子供自身が自己選択・自己決定できる機会を意図的に設定しながら進めていくことが考えられます。

- 「学習者主体の授業」では、子供が自ら「問いを発見する」、「解決の方法を見通す」、「課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する」、「自らの学びを振り返り、次に生かす」といった活動に取り組み、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けていきます。その際、問題解決の場面において、子供がICTや、ノート、ワークシート、具体物などの道具等や、個、ペア、グループなどの学習形態、あるいは学習時間も自己選択・自己決定しながら学習に取り組む姿が考えられます。
- また、問題解決の場面において、図や言葉などを用いた解決方法や、学習目標などの課題設定までも自己選択・自己決定しながら学習に取り組む姿も考えられます。
- ところで、このように子供に委ねる授業は、いわゆる「放任」に当たるのでしょうか。
- 私たちはそうは考えていません。「学習者主体の授業」が目指すものは、子供たちが自己肯定感や自己調整力といった非認知能力も含めた「学びに向かう力、人間性等」に加え、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力をバランスよく身に付けることです。
- その実現に当たっては、学習指導要領等を用いた入念な教材研究により、子供に育成する資質・能力を分析することから始まり、単元・題材を通して各教科等における「見方・考え方」を働かせながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるよう、学習環境整備も含め、授業をデザインすることが重要です。
- そして、授業毎など不断のPDCAサイクルを回すことが求められます。
- 以下に、「教員主導の授業」と「学習者主体の授業」の特徴を例として示します。

【「教員主導の授業」では…】

～子供の授業中の様子～

- ☐ 子供が個々に教師に向かって話す。
- ☐ 子供がただ板書を写している。
- ☐ 教員の指示を待っている。
- ☐ 挙手をする子供が決まっている。
- ☐ ノートへ積極的に書こうとしない。
- ☐ グループ学習ではいつも見ているだけの子供がいる。
- ☐ 対話に目的がなく、ただ話している。



～教員の姿勢～

- ☐ いつもしゃべっている。
- ☐ 子供の発言を解説する。
- ☐ 子供と一問一答が多い(黒板の前から離れない)。
- ☐ 板書を書くこと、写させることに徹している。
- ☐ 挙手をする子供(同じ子供)に指名をする。
- ☐ グループの代表の子供に順番に発表させる。



授業

- ・ 同じ内容を同じ方法で、同じペースで進める授業
- ・ 教師の指示通りに進められる授業

子供の姿

- ・ 受け身で教師の指示を常に待つ姿
- ・ 指示や内容に疑問を感じず行かう姿

教員の姿

- ・ 「知識及び技能」といった「見えやすい学力」に重点をおいた指導をする姿
- ・ 子供が周りと同じように行動することを前提とした姿

(出典)「子供が自ら学びだす「教えない授業」を創る【令和5年4月10日】
(ぎょうせい)」を基に作成

【「学習者主体の授業」では…】

～子供の授業中の様子～

- ☐ 子供が自ら問いをもつ場面がある。
- ☐ 子供が問題解決に向けて見通しをもっている。
- ☐ 子供が黒板、教科書、ノート、ワークシート、タブレット端末等を自分で選択し、学びを進めている。
- ☐ ネット環境を活用し、様々な角度から情報を適切に集めて考えをまとめている。
- ☐ 子供が問題解決のときに、分からない友達に教えたり聞きに行ったりしている。
- ☐ 子供が授業内容によって個、ペア、グループで学ぶことを選択している。
- ☐ 子供が各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面がある。
- ☐ タブレット端末のアプリなどを活用し、友達と意見を比較しながら考えている。
- ☐ 発表する相手を意識し、著作権などに配慮した発表データをつくっている。
- ☐ 子供全員が考えを出せるホワイトボード・短冊・付箋・タブレット端末等を使っている。
- ☐ 子供が友達の意見に関連付けて自分の意見を発表している。
- ☐ 子供が自分の言葉でまとめを書き、まとめた内容は課題と一体となっている。
- ☐ 子供が学んだ内容や、自分の学び方についてそれぞれ振り返りを行っている。

～教員の姿勢～

- ☐ ICTを活用して資料等を大きく見せている。
- ☐ 端末を持ち帰らせるなどして学びが連続する家庭学習の工夫をしている。
- ☐ ICTを活用し、友達と協働できる学習の工夫をしている。
- ☐ 子供が一人で考える時間と協働する時間のバランスを工夫している。
- ☐ 子供が、各教科における「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けているかどうかを見取っている。



※ イラストは「Image Creator」(画像生成AI)において「ICTでグループ学習をいきいきと楽しそうに行う授業 教員は子供を見守る デジタル アート イラスト」と入力し、作成

授業

- ・ 子供それぞれの興味・関心や学習進度に応じた授業
- ・ 子供が解決の方法を自分なりに選択・判断する授業
- ・ 子供が自分の学びを振り返り、次に生かしていこうとする授業

子供の姿

- ・ 意図をもって、主体的に課題に取り組む姿
- ・ 一人一人が自分の課題解決に向けて、試行錯誤を繰り返し、学びを調整する姿
- ・ 協働してものや考えを創り出す姿

教員の姿

- ・ 「思考力、判断力、表現力等」といった「見えにくい学力」や「学びに向かう力・人間性等」といった「見えない学力」も大切にする姿
- ・ 子供たちを信じ、可能な限り学習を委ねる姿
- ・ 一人一人のよさに着目し、そのよさを伸ばそうとする姿

(出典)「子供が自ら学びだす「教えない授業」を創る【令和5年4月10日】(ぎょうせい)」を基に作成

2 「学習者主体の授業」を進める上で、教員はどのように関わればよいですか

Answer

教員は「ファシリテーター的な役割」として、子供たちそれぞれの学びを見取り、指導に生かすことを重視して関わるのが大切になります。

- 授業を山登りで例えてみると、授業の目標となる山頂を目指すルートは様々あります。どのルートをどれくらいの時間でどのように登るのかは、人それぞれ違います。
- そのことを踏まえると、授業において、教員が準備するものや学習形態、時間などの全てを一律に示してしまった場合、子供たちはどのように感じるでしょうか。
- 子供は「有能な学び手である」と信じて、まずは子供たちに委ねてみる。そして、子供たちがどのようにつぶやいているのか、何を書いているのかという姿（事実）をしっかりと見取り、その姿を認める。その上で、困っている子供が求めたタイミングで必要な内容を提示できるように万全に準備しておく。
- このように支援することが「ファシリテーター的な役割」であり、こうした関わりによって、子供たちは主体的に学習に取り組むようになると考えています。

有能なファシリテーターは例えば・・・



【前提として】子供は「有能な学び手である」と信じる。

① 準備万端！

- 子供たちにとって、課題解決したくなる問題や内容等を提示する。
- 本単元で育成する資質・能力を子供たちと共有する。
- 学びに関わる多くの決定を子供に委ねられるように、単元構成や内容を工夫・開発する。
- 試行錯誤できる場や時間を設定し、必要となる資料や教具などを準備する。

② しっかり伴走！

- 子供のつぶやきや反応から、何にこだわっているか、どこにつまずいているかをしっかりと見取り、認める。
- 子供に合わせて、立ち止まって一緒に考えたり、新たな視点を与えたりする。
- 振り返りを行わせ、子供の伸びや成長をしっかりと価値付け、称賛する。

3 「学習者主体の授業」とつながる家庭学習はどのように進めればよいですか

Answer

教員は、子供が主体的に学び続けていけるように家庭と連携を図りながら、家庭学習の目標や内容、進め方等を自分で決めて目標達成を目指す「家庭学習マイゴールチャレンジ」を推進することが大切になります。

- 「学習者主体の授業」を実現し、子供がより効果的に資質・能力を身に付けていくためには、家庭学習においても、子供の主体的な取組が求められます。
- 家庭学習の基本的な進め方について、全校体制で共通理解するとともに、家庭や近隣の小・中学校と連携を図ることが効果的です。
- 学校が一律に指示する課題に取り組むのみではなく、子供が家庭学習の目標や内容、進め方等を自ら決めて取り組む割合を、学年や子供の実態に応じて、段階的に増やしていくことが大切です。

～マイゴールの例～

- 学校から指示された課題をしっかりとやり遂げる。
- 授業でよく分からなかった内容を重点的に復習したり、発展問題にチャレンジしたりするなど、自分で課題を設定して取り組む。
- 授業の内容や日常生活で気になることについて、とことん探究する。

など

4 「学習者主体の授業」の進め方について、実践例はありますか

Answer

P16 から具体的な実践例を五つ紹介します。

実践例では、子供に育成する資質・能力によって、どのような自己選択・自己決定の機会を確保するかという視点をもつとともに、その視点で振り返ったり、学びを調整したりする場面を設定しています。

その際、授業において子供が自ら問いを発見したり、解決の方法を見通したり、協働しながら解決に向けて試行錯誤したりするとともに、学びを振り返る場面を設定することで、学び方を身に付けさせることが重要です。

例えば、総合教育センターでは、学習者が選択する視点として以下の五つを示しています。

学習者が選択する視点とは



「道具・活動」の自己選択・自己決定

- ☐ ノート，黒板，具体物，タブレット端末，体験など



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

- ☐ 一人で考える，ペアで考える，グループで考えるなど



「学習時間・ペース」の自己選択・自己決定

- ☐ 考える時間，説明する時間，解説を聞く時間など



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

- ☐ 図，言葉，書く，聞くなどして考える



「課題・めあて」の自己選択・自己決定

- ☐ 学習課題，内容，対象，適応問題など

学習者主体の授業



子供が自ら問いを発見する

「どうしてこうなるのかな」，「それはどういうことかな」

子供が自らの学びを振り返り，次に生かす

「この方法がよかったな」，
「これがよくなかったから，次はこうしたらいいぞ」

子供が解決の方法を見通す

「何か使えそうな考えはないかな」，
「この方法でやってみたいな」



子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す，協働する

「できるまで挑戦するぞ」，「あの友達に聞いてみよう」

実践例

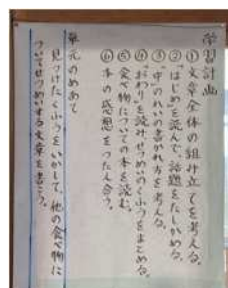
実践例Ⅰ 小学校国語科 喜界町立喜界小学校
第3学年 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう
教材名 「すがたをかえる大豆 食べ物のみみつを教えます」

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 導入の場面では、本時の見通しをもつことができるように、単元の目標や既習事項等を教室に掲示したり、前時までの振り返り等の資料をタブレット端末に準備したりする。
- 展開の場面では、粘り強く学習に取り組ませるために、まず、個人で解決する時間を確保し、その後、ペアやグループで教え合ったり、担任からヒントをもらったりするなど学習形態を工夫して問題解決できるようにしたりする。
- 終末の場面では、「何を学んだか。」「どのように学んだか。」を振り返り、次時の学習に生かすことができるように、学んだこと・友達との関わり・これからしてみたいこと等の視点で振り返りをノートに記入させる。また、振り返りの内容について、友達と交流する時間を十分設ける。

- 既習内容(説明文の構成や筆者の問い)を確認する。

この単元の目標は何でしたか。そのために、前時は何をしましたか。



ポイント

- 単元を通して学びがつながるように、学習で用いた資料等を教室内に掲示したり一人一台端末にデータを蓄積させたりするようにします。また、自分で記入した前時までの振り返りを読み返す時間を確保するようにします。

- 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。

たくさんの例がありますが、書かれている順番に意味があると思いますか。



あると思います。「いちばん分かりやすいのは」と書いてあるからです。



でも、何が分かりやすいのか、いろいろ考えられるよね。



どのような理由で書かれている順番が決められているのか、文章を読み返してみよう。

【学習課題】

筆者はどのような理由で、「例」の順番を決めたのだろう。



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

□ 学習課題を解決する。

個に応じた見通しの支援



個での試行錯誤や協働の
選択



解決した課題の共有・吟味



「分かりやすい」とあるけど、例の
分かりやすさは、何を見て比べればい
いのかな。

例の分かりやすさを比べる視点など、なか
なか解決の見通しがもてないときは、掲示し
てある「段落のまとめ」の一覧表を参考にし
てください。

例の順番にどのような理由があるか、考え
をクラウドに入力してください。他の人の考
えを参考にしてみるのもいいですね。



〇〇さんの考えが参考になるなあ。僕
の考えも、もう一度見直してみよう。

グループで交流をして、よく分からなかつ
たところを質問したり、自分の考えに意見や
助言をもらったりしましょう。



💡 ポイント 💡

○ 「一人で考える」「友達と考える」「先生と考える」など、学習形態を見童に選択さ
せるようにします。また、ワークシートを複数用意し、個の理解の状況に応じて使い分
けて自己解決を図らせます。

□ 本時のまとめ、振り返りを行う。

振り返り



新しい問いの発見



今日の学習を通して、どのようなことに気付
きましたか。分かったことや気になったことがあ
りましたか。



最後の段落の書き方は、自分たちの説明文づ
くりを生かすことができると思いました。

💡 ポイント 💡

○ ICT を活用し、集約した振り返りを児童が共有できるようにします。その際、
振り返りの視点に沿った価値付けなど具体的な称賛を行うと効果的です。



各教科において、学習指導要領の趣旨
を踏まえた教材研究は欠かせません。
参考資料はこちらから。

← 総合教育センター

「学習指導要領の趣旨を踏まえた教育の
改善に関する研究」



全 43 市町村教育委員会から提出
していただいた「学習者主体の授業」
実践例はこちらから。

← 鹿児島県教育委員会

「「学習者主体の授業」実践例」



総合教育センター調査
研究発表会のまとめはこ
ちらから。

← 総合教育センター

「調査研究発表会」



教科等の課題及び総合的
な課題解決に資する基礎的・
総合的な調査研究を基にし
た参考資料はこちらから。

← 総合教育センター

「指導資料（令和 5 年度発行分）」

実践例2 小学校社会科 鹿児島市立星峯西小学校
第5学年「これからの食料生産とわたしたち」

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 小単元の学習問題「食料生産にかかわる課題解決のために、どのような工夫や努力が行われているか調べ、これからの日本の食料生産の在り方を提案しよう」を設定し、資料や学び方等を自己選択・自己決定し、他者と協働しながら、問題解決的な学習を展開できるようにしている。
- これからの食料生産に関する意見文作成は国語科の授業（「資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして書こう」）で取り扱い、教科横断的な学習として単元を構成している。
- 【追究の柱】に基づいて追究した内容について、児童自身が形成的評価を行うことで、自分の学びに合う学び方をより適切に選択・判断できるようにしている。



「課題・めあて」の自己選択・自己決定

（予習）前時～家庭学習

- 見いだした問いを基に、追究計画を立てる。

【児童が見いだした問いの分類】

「食料生産の課題について」、「日本の食料自給率について」、
「食の安全性について」、「食の安定性について」

【追究の柱】

「食料自給率低下の原因と問題点」、「食の安心・安全を守る取組」、
「食料を安定して確保する取組」

- 問題解決の見通しをもつ。
- 問いを追究する。



一人で、どんどん調べて
いけそうだ。

班で分担して調べ、共有し
たいな。



💡 ポイント 💡

- 小単元のガイダンス（第1時）において、既習事項を振り返りながら、シンキングツール等を基に、児童が問いを見いだす活動を位置付けることが大切です。
- 【追究の柱】は、小単元の学習を通じて働かせてほしい教科の「見方・考え方」を基に、児童の問いを分類したり関連付けたりしながら設定していきます。

（本時）

- 「児童と共有する評価の例」を基に振り返りの視点を確認する。
- 自分の学習の進み具合を確認する。



何を使って調べ、誰と、どのよう
に学習を進めていきますか。自分に
合った方法を選択して進めていきま
しょう。





「道具・活動」の自己選択・自己決定



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

○ 問いを追究する。



調べ方が分からないときは友達と協力して解決してみよう。



タブレットを使って、友達の学習履歴を見ると、とても参考になるよ。



🔗 ポイント 🔗

- 児童が予習で調べた内容を本時まで確認し、一人一人の学習状況を的確に把握した上で、個への働きかけを具体的に検討することが必要です。例えば、必要な他者と協働で学習を進めたり、他者の学習履歴から調べる内容や方法を参照したりするように促すことで、児童自らが形成的評価を行いながら、自分の学びを深めていけるようにすることが大切です。

○ SSGs※を活用して、本時までの振り返りを行う。

社会科【食料生産編】5年 小単元「4」 これからの食料生産とわたしたち

SSGs(Social Studies Goals)

小単元の学習問題
食料生産に関わる課題の解決のために、どのような工夫や努力が求められるのか、これからの食料生産のあり方を考える。

My Goals(私の目標)
食料生産に関わる課題の解決のために、どのような工夫や努力が求められるのか、これからの食料生産のあり方を考える。

問い No.1	問い No.2	問い No.3
なぜ、日本の食料自給率は低いのか？ 食料自給率が低いことについて調べるのか？	海外産に、なぜ、安全な食料を求めるのか？ 海外産に、なぜ、安全な食料を求めるのか？	食料を安定して確保するために、何が、どのような取り組みを行っているのか？
SSGs No.1 日本は、食料自給率の低い国である。食料自給率を高めるためには、どのような取り組みが必要なのか？	SSGs No.2 海外産に、安全・安心な食料を求めるために、スーパーマーケットや惣菜店の人々が、トレーサビリティの取り組みをすすめている。輸入食品に対するきびしい衛生管理が行われている。	SSGs No.3 食料を安定して確保し、日本の食料自給率を高めるために、JAや農業法人の人々が、地産地消の取り組みや、農業法人を設立して食料生産で働く人を増やすなどの取り組みを行っている。
振り返り(振り返りシート)振り返りシート 【うまくいったこと】 食料自給率の低い国である。食料自給率を高めるためには、どのような取り組みが必要なのか？ 【うまくいかなかったこと】 特になし 【次の学習に生かすこと】 食料自給率を高めるためには、どのような取り組みが必要なのか？	振り返り(振り返りシート)振り返りシート 【うまくいったこと】 海外産に、安全・安心な食料を求めるために、スーパーマーケットや惣菜店の人々が、トレーサビリティの取り組みをすすめている。輸入食品に対するきびしい衛生管理が行われている。 【うまくいかなかったこと】 特になし 【次の学習に生かすこと】 海外産に、安全・安心な食料を求めるために、スーパーマーケットや惣菜店の人々が、トレーサビリティの取り組みをすすめている。輸入食品に対するきびしい衛生管理が行われている。	振り返り(振り返りシート)振り返りシート 【うまくいったこと】 食料を安定して確保し、日本の食料自給率を高めるために、JAや農業法人の人々が、地産地消の取り組みや、農業法人を設立して食料生産で働く人を増やすなどの取り組みを行っている。 【うまくいかなかったこと】 特になし 【次の学習に生かすこと】 食料を安定して確保し、日本の食料自給率を高めるために、JAや農業法人の人々が、地産地消の取り組みや、農業法人を設立して食料生産で働く人を増やすなどの取り組みを行っている。

小単元のまとめ
日本は、食料自給率の低い国である。食料自給率を高めるためには、どのような取り組みが必要なのか？

振り返り(振り返りシート)振り返りシート
【うまくいったこと】
エーコープの石神さんにまだ自分が疑問に思っていることや、エーコープで取り組んでいることを粘り強く聞くことができた。
【うまくいかなかったこと】
特になし
【次の学習に生かすこと】
石神さんが教えてくれた発表の時のアドバイスなどを資料にまとめて資料をよりよくしたい。

※ Social Studies Goals は、振り返りのためのデジタルワークシートの名称

SSGsは、調べたことや自分の考え、自分の学び(粘り強さ・自己調整)について、小単元の適切なタイミングで記録できるように作成したワークシートである。

🔗 ポイント 🔗

- 自分の学びを振り返る際に、「うまくいったこと」、「うまくいかなかったこと」、「次の学習に生かすこと」の視点で記述させることで、児童は、自分の学びの変容を捉え、自己調整を図ることができます。
- 振り返りの視点を確認する際に、めざす学びの姿を具体的に共有しておく必要があります。また、授業過程で、振り返りの視点を参照する場面を適宜設けることが大切です。

実践例3 小学校算数科 垂水市立新城小学校
第5学年「小数のわり算」(12/13時) 第6学年「分数÷分数」(4/9時)

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 前時に本時の学習課題を立て、家庭学習で自分の考え等をまとめ、それを基に、本時はペア及び全体の協働的な学びから始めることで(予習型反転学習)、意見を交流する時間を十分に確保し、自分の考えをより深めることができるようにしている。
- 児童が取り組む教材(教科書、計算ドリル、AIドリル等)を自己選択・自己決定できる場を設定することで、自ら進んで課題解決に取り組む姿勢を身に付けることができるようにしている。

- 本時の学習活動を確認する。

今日の学習活動については、前の時間に確認していますね。
今日はどのようなことができるようになりますか。



「小数のわり算」の総仕上げだ。
計算を正確にできるようにしたい。



文章を正しく読んで、式に正しく
表して解けるようにしたい。



今日の内容を予習してきたよ。
約分や逆数を意識して計算をす
すら解けるようにしたい。



発展問題にたくさんチャレンジ
したい。



「課題・めあて」の自己選択・自己決定

- 本時のめあてを確認する。

それでは、自分の言葉でめあてを決定しましょう。



【5年 学習課題】

小数のわり算の学習の総仕上げを自分
の計画に沿って取り組もう。

【6年 学習課題】

わられる数が整数や帯分数のときの計
算はどのようにとけばよいのだろうか。

💡 ポイント 💡

- 学習の見通しをもつために、学習計画表を配布し、単元全体及び、本時の見通しをもてるようにする。
- タブレット端末で予習してきたことを基に、本時で何を学ぶのか考えさせる。十分な意見交換ができるようにデジタルノートを活用した予習をさせておく。
- 家庭学習で取り組んだ学習課題を基に、自分の言葉でめあてを板書させることで自ら学び考えながら学習に取り組むことができるようにする。



「道具・活動」の自己選択・自己決定



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

- 学習活動の見通しをもつ。
 - 学習計画表を基に取り組む課題や、教材の選択を行う。
 - 見届け問題及び振り返りを、活動時間内に取り入れられるよう学習の進め方を示す。



文章題が苦手だから、4 ます関係表の問題を、まずは自分でやってみよう。



筆算が分からなくなったら、友達に教えてもらおう。

- 各自が立てためあてに沿った学習を進める。

- 予習事項について友達と学び合う。



前の時間との違いは、両方とも帯分数や整数が式に入っているところです。だから、帯分数を仮分数に直して計算すればいいと思います。整数が入っているときは…。

- 学習活動の見通しをもつ。

面積が 2.6 cm の平行四辺形があります。
底辺の長さは $2\frac{3}{5} \text{ cm}$ です。高さは何 cm ですか。



高さは、面積÷底辺で求められそうだ。

ポイント

- 児童が取り組む教材（教科書、計算ドリル、AIドリル等）や、活動に取り組む順序（練習問題、振り返り・まとめ、家庭学習の計画等）を自己選択・自己決定できる場面を設定することで、自ら進んで課題解決に取り組む姿勢を身に付けられるようにする。
- 児童に順序を選択して、学習を進めてもよいことを告げ、主体的に学習に取り組めるようにする。そして自分の優先順位に沿って学習を進めるよう、机間指導を通して適宜助言する。

- 次時の単元テストまでに必要な家庭学習の計画を立てる。



小数点の付け方を復習しよう。



文章題を練習しよう。

- 本時の振り返りを発表する



- 各自が立てためあてや目標に沿った学習を進める。また、児童同士が協力して設定された時間内で問題に取り組めるよう学習の進め方を示しておく。



整数を分数に表して、帯分数を仮分数にして逆数をかければ…。

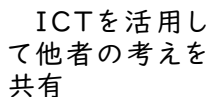
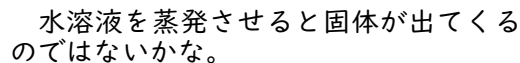
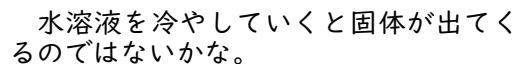
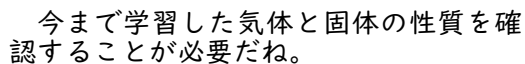
逆数をかけたら分子がすごい数になってしまった。本当にこの計算方法でいいのかな。

- 次時の見通しをもつ。
- 本時を振り返り、まとめを発表する

ポイント

- 本時の振り返り及びまとめは、5・6年合同で行い、異なる学年の課題解決の方法のよさに気付けるようにする。
- 次時の学習課題をデジタルノートで示し、学習の見通しをもたせる。
- 予習事項は家庭学習で取り組み、次時の前に必要に応じて支援をする。

○ 課題に対する解決方法を立案する。

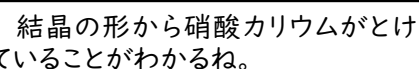
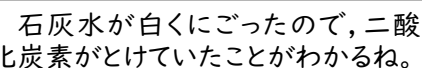


💡 ポイント 💡

- 

「道具・活動」の自己選択・自己決定

- 各班で計画した観察、実験を行う。
 - 実験の結果を共有する。
- 例) BTB溶液…黄色、石灰水…白くにこった、冷やす…細長い結晶が出てきた
蒸発…黒く焦げた、甘いにおいがした

[illegible]

💡 ポイント 💡

- 23-

実践例5 中学校英語科 南大隅町立根占中学校
第3学年「SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 4」

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 導入の場面では、事前に動画で送付していた自分の発表に対する ALT からの個別の動画によるフィードバックを受けて、自分の発表の修正点などについて英語を通して理解させる。さらに、それらを修正し、ブラッシュアップするためにどのような学びをするかを検討させ、「解決方法・考え方」「課題・めあて」を自己選択させ、個別の My Goal を設定できるようにしている。
- 展開の場面では、My Goal 達成に向けて、「道具・活動」「学習形態・スタイル」を自己選択できるようにしている。
- 終末の場面では、本時の My Goal に対する達成度を個別に確認させ、その結果に結び付いた学習方法などに関する自分の選択等について検証させ、次時からの学びに生かされる工夫をしている。



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定



「課題・めあて」の自己選択・自己決定

- 本時の学習課題を確認する。

【学習課題】

レイチェル先生がまだ詳しく知らない日本の夏祭りにあるものを紹介するために、自分の発表をブラッシュアップすることができるようになろう。

前時にレイチェル先生に送った動画へのフィードバックの動画が届いています。それぞれ個別に見てみましょう。



(ALT からの動画を見て)



レイチェル先生が言っている内容がよく分からなかったな。

単語の発音があいまいなところがあるんだな。



詳しい情報をもっと加えた方がいいんだな。

視線やジェスチャーなども工夫したいな。



- 課題解決に向けた My Goal を設定する。

それぞれレイチェル先生からの個別のフィードバックを踏まえて、自分の発表をよりよくするための My Goal を設定しましょう。



💡 ポイント 💡

- できるだけ楽しく学習できる Large Task (単元を貫く到達目標) を設定する。
「ALT が夏祭りに行った際の疑問 (金魚すくい、ラムネなど) に答えよう!」
- 「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」を図るために My Goal を設定させ、学び方等も自己決定させる。



「道具・活動」の自己選択・自己決定



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

○ 課題解決に向けた学びを行う。

それでは、それぞれ My Goal 達成に向けて取り組んでください。修正などが終わったら、レイチェル先生に送り直す動画を隣の教室で撮影してもかまいません。



レイチェル先生が言っていることが分からないから友達に聞いてみよう。



分からない発音は先生に聞いて、発音チェックサイトを使って練習してみよう。



追加する情報はどんなものがあるかな。それは英語で何と言えればいいかな。タブレットで調べてみよう。



視線が下がらないように、ジェスチャーが自然になるように、友達と録画し合いながら練習しよう。



💡 ポイント 💡

- 生徒が自走できるよう、課題解決に必要なコンテンツを事前に用意しておく。
- 初めに考えた方法でうまく行かない場合は、早めに違う方法を試すよう促す。
- 全体として指示が必要な場合のみ中間指導を行い、それ以外は個別の進捗を確認しながら、適宜ファシリテートする。

○ 本時の学習について振り返りを行う。

今日の授業を通して、分かったことやもっと知りたいこと、「なるほど」と思ったこと、できるようになったことを書きましょう。また、次の時間は自分が何をすべきかということも考えて書きましょう。



レイチェル先生に言われた発音の間違いが多かったので、その部分を先生と確認してしっかり練習することができた。次の時間には発音を完璧にしたいと思った。



タブレット端末で調べて間違っていた発音を確認することができた。声に出して読み、合っているかを確認したい。レコーディングは声の大きさ、抑揚に気を付けたい。



「おみくじにはたくさん種類がある」と言うときには、“There are many kinds of omikuji.” を使うとよいことが分かった。少しでもスムーズに言えるように練習してレコーディングをしたい。

💡 ポイント 💡

- My Goal に沿って振り返りをさせる。その際、英語の内容等と発表の仕方等、学習方法等の3つの観点で行わせるようにし、学び方が身に付くよう指導する。
- 効果があったと感じた学習方法等は、学級全体でシェアリングする。

